

平成29年度 校務改善推進事業発表会

教師も子供も生き生きと輝く学校

府中市立府中第三小学校

発表者 校 長 宇都宮 聡
教務主幹 浅倉 宏之
ICT主任 山内 佑輔

Contents

- I 学校の概要
- II 校務改善に取り組んだきっかけ
- III 本校の学校経営の考え方(目標管理による学校経営計画)
- IV 具体的な取り組み
 - 1 校務改善支援員の活用と事務室の機能強化(教員の事務負担軽減)
 - 2 学校運営組織の改善(ミドル・アップダウン・マネジメント)
 - 3 日常の教育活動のOJT化
 - 4 校務支援システムの導入
 - 5 ICTを活用することによる教育活動の効率化
- V 今後の展望

I 学校の概要

○所在地 東京都府中市片町3-5

○最寄り駅 京王線・JR南武線 分倍河原 徒歩5分

○児童数 805名 23学級

○特別支援教室「つばさ」拠点校 在籍児童数 62名

平成28・29年度(平成29年5月20日授業公開)

東京都教育委員会ICT環境整備支援事業指定校

平成29～31年度

東京都教育委員会

「発達に課題のある児童の指導法の研究・開発事業」研究指定校

平成28・29年度(平成29年11月10日研究発表)

府中市教育委員会研究協力校

「児童が主体的に取り組む「分かる授業」を目指して
—ユニバーサルデザインの指導方法を生かして—」

平成28・29年度

府中市教育委員会巡回指導拠点校モデル事業指定校



I 学校の概要

○教育目標

人権尊重の理念を基調として、心身共に健康で、豊かな情操と知性をもち、創造性・国際性を身に付けた人間性豊かな児童の育成を目指す。そのために次の目指す児童像を掲げる。

- すすんで学ぶ子 (知) 目的意識をもち、深く考え、学ぶ喜びを味わう児童
- 思いやりのある子 (徳) 相手の立場を理解し、心を通わせて支え合う児童
- ねばり強い子 (徳) 最後までやり通し、責任を果たす児童
- 健康な子 (体) 運動に親しみ、朗らかに過ごす児童

○教育活動のテーマ

教師も子供も生き生きと輝く学校

II 校務改善に取り組んだきっかけ

- 学校に求められる多くの課題が複雑化・多様化することによる教師の多忙感の軽減
 - 1 課題によって、学校運営組織に位置付けなければならない。→多忙の要因の一つ
例:いじめ対策、校内委員会、アレルギー対策、小中一貫、オリンピック・パラリンピック 等
 - 2 特別な支援を要する児童の増加
 - 3 新学習指導要領への対応(外国語科、道徳の教科化、指導時数の増加による土曜日の授業日設定 等)

- 年齢層による、組織運営上の常識のかい離の解消→組織目標を明確化する重要性

- 課題への対応に伴うビルト&ビルトの発想からスクラップ&ビルトへの意識の転換

- 教職員が費用対効果の意識をもつ必要性

Ⅲ 本校の学校経営の考え方(目標管理による学校経営計画)

○学校組織マネジメントの考え方に沿って

平成 29 年度

府中市立府中第三小学校



学校経営計画

教育活動推進テーマ

教師も子供も
生き生きと輝く学校

- 1 学校経営目標
- 2 学校経営目標を達成するための基本的な考え方
 - (1) 学校の教育目標
 - (2) 目指す学校像
- 3 中期的目標と今年度の重点及び具体的な方策
 - (1) 本校の実態と中期的目標
 - (2) 今年度の重点及び具体的な方策

Ⅲ 本校の学校経営の考え方(目標管理による学校経営計画)

○学校組織マネジメントの考え方に沿って(目指す学校像の共通理解を図る。)

2 学校経営目標を達成するための基本的な考え方

(2) 目指す学校像

①児童が瞳を輝かせ、笑顔がいっぱいの学校

児童が成就感、満足感を味わえるような各教科・領域、行事、日常生活での学習や練習、努力をと
おして、必要なことをしっかりと学び、自らの進歩、成長が実感できるようにする。

②教育活動の成果を基盤にした学校

学校経営のねらいや取組を保護者や地域の方々に説明し、どんな教育活動を行って、どのような
成果を出す予定なのかを明らかにするとともに、学校だよりや学年だより、学級だよりなどを使って、
その過程を保護者・地域に知らせると共に、実施後は、その成果を具体的に示していく。

③教職員が専門職としての自覚と高い指導力をもち、保護者・地域と共育する学校

(略)

④スクール・コミュニティの機能を生かし、保護者・地域と共に歩む安心・安全な学校

(略)

⑤9年間を見通して、生きる力の基礎をはぐくむ学校

(略)

Ⅲ 本校の学校経営の考え方(目標管理による学校経営計画)

○学校組織マネジメントの考え方に沿って(校務を分類し、中期目標と取り組み目標の共有)

赤字は、中期目標に基づき、学校運営組織へ新たに位置付けを行ったもの

3 中期的目標と今年度の重点及び具体的な方策

(1) 本校の実態と中期的目標

①基礎学力の定着

ユニバーサルデザインの授業を取り入れ、児童一人一人の状況に即した指導を行う。また、教師の児童理解力と授業力を向上させ、各種学力調査を適切に分析した授業改善推進プランに基づく組織的な授業改善、**タブレット・パソコンを活用した「分かる授業」の展開を図る。→ICT部**

また、問題解決能力や論理的思考を育てるため理数教育の充実を図る。

巡回指導拠点校併設校のメリットを生かし、特別支援教育の充実を図る。→特別支援教育部

②健やかな心と体の育成

③言語活動や読書活動、アクティブラーニングの充実

④生活指導や道徳教育、豊かな感性をはぐくむ教育の充実

⑤体験活動の重視

⑥**特別活動の充実→特別活動部**

⑦安全・安心の確保

⑧スクール・コミュニティの形成、保護者・地域との連携

⑨組織体としての学校機能の発揮と指導力の向上

Ⅲ 本校の学校経営の考え方(目標管理による学校経営計画)

○学校組織マネジメントの考え方に沿って(今年度の重点及び具体的な方策の提示)

※9つの中期目標に基づく85項目の具体的な方策を示し、

自己申告書へ個人の取り組みを記入する。))

(2)今年度の重点及び具体的な方策

①基礎学力の定着

↔	今年度の重点及び具体的な方策↔	↔	↔
1↔	研究協力校として通常学級における、ユニ	↔	↔
↔	バーサルデザインの授業を実践し、適切な		
↔	評価をし、児童一人一人の状況に即した		
↔	「分かる授業」を行う。↔		
2↔	取り出し指導等の拠点及びクーリング・ダ		
↔	ウンの教室として、サポートルームを活用		
↔	する。↔		
3↔	標準授業時数を上回る授業時数を確保す		
↔	るとともに、教師の児童理解力を高め、授		
↔	業の質を保証する。↔		
4↔	朝の学習の時間の指導計画を作成し、効果		
↔	的な活用を図る。↔		
5↔	東京ベーシック・ドリルを活用し、4年生		
↔	までに身に付ける学習内容の定着を図る		
↔	とともに、4年生で年度末に定着度診断調		
↔	査を行う。↔		
6↔	算数において、1・2年生のチームティー		
↔	チング、3年生からの習熟度別指導を実施		
↔	し、基礎的・基本的内容の定着を図る。↔		
7↔	理科で、実感を伴う学習を行う問題解決学		

IV-1 具体的な取り組み

校務改善支援員活用と事務室の機能強化(教員の事務負担軽減)

○校務改善支援員の活用(府中市の全小中学校に配置)

◇目的

副校長をはじめとする教員の事務負担軽減を図ることにより、児童・生徒の知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をより一層育むための支援員

◇勤務形態

臨時職員 年620時間勤務

◇職務内容

- ・出勤簿確認、整理事務 ・旅行命令簿確認事務 ・出席簿、週案簿の確認事務
- ・学校だより配布事務
- ・学校行事案内作成、配布事務 ・教材の作成、印刷 ・学校支援ボランティアとの連絡、調整
- ・副校長補助事務全般

IV-1 具体的な取り組み

校務改善支援員活用と事務室の機能強化(教員の事務負担軽減)

○事務室の機能強化

◇組織

都事務、市臨時職員、事務補助員(週3日)、用務

◇特に強化した点

- ・校長の学校配当予算執行方針に沿った予算編成と予算委員会の主宰
- ・年度当初に学年、教科等で予算編成や執行時期について申請する。
私費については年間見通しを保護者に通知する。
- ・公費、私費による発注、支払は事務室で行い、学年では行わない。

(教員の金銭に伴う事務の軽減と服務事故の防止)

- ・毎月、予算執行状況を教職員に提示する。

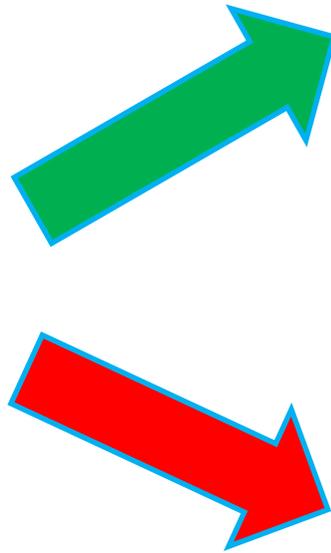
IV-2 具体的な取り組み

学校運営組織の改善(ミドル・アップダウン・マネジメント)

平成27年度

四部会

- ・生活保健指導部
- ・体育部
- ・研究推進部
- ・特別活動部



平成28年度～

A部会(通常校務対応部会)

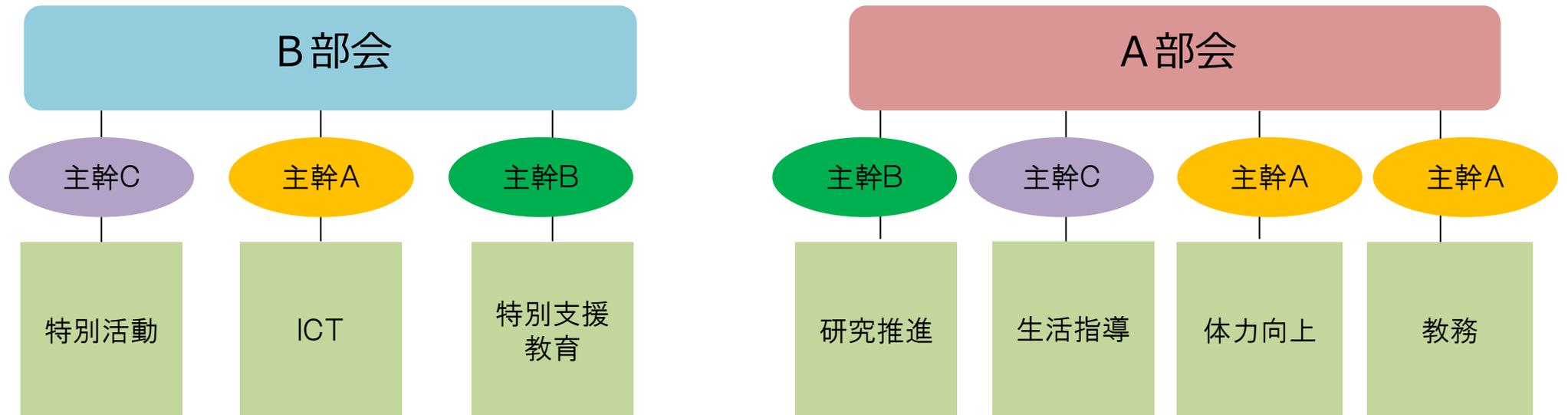
- ・教務部
- ・生活指導部
- ・体力向上部
- ・研究推進部

B部会(教育課題対応部会)

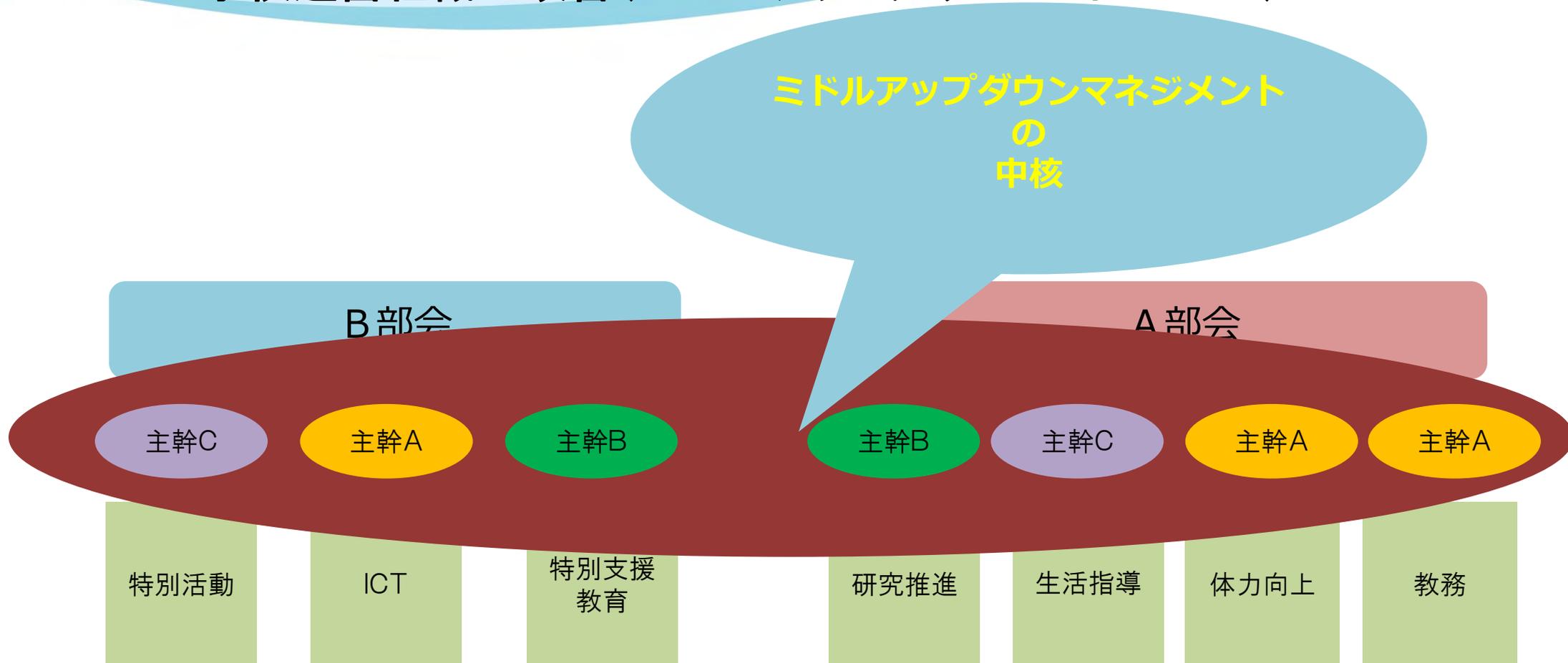
- ・特別支援教育部(新設)
- ・ICT部(新設)
- ・特別活動部(新設)

IV-2 具体的な取り組み

学校運営組織の改善(ミドル・アップダウン・マネジメント)



IV-2 具体的な取り組み 学校運営組織の改善(ミドル・アップダウン・マネジメント)

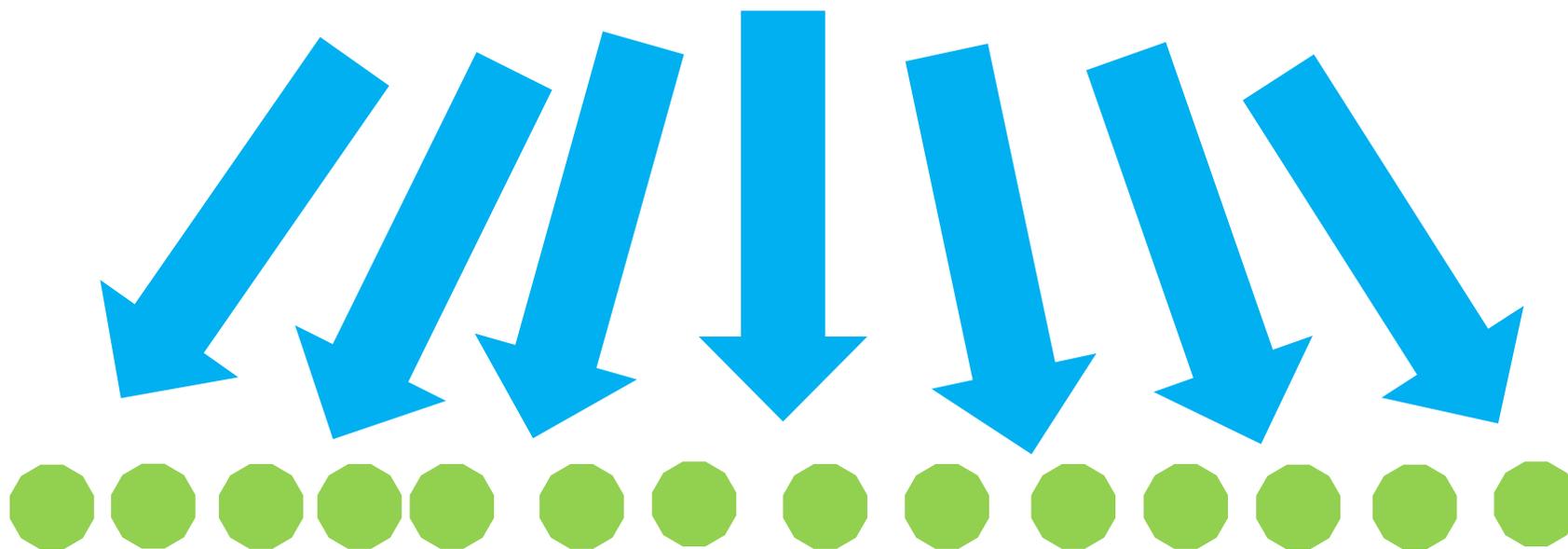


IV-2 具体的な取り組み

学校運営組織の改善(ミドル・アップダウン・マネジメント)

トップダウン型

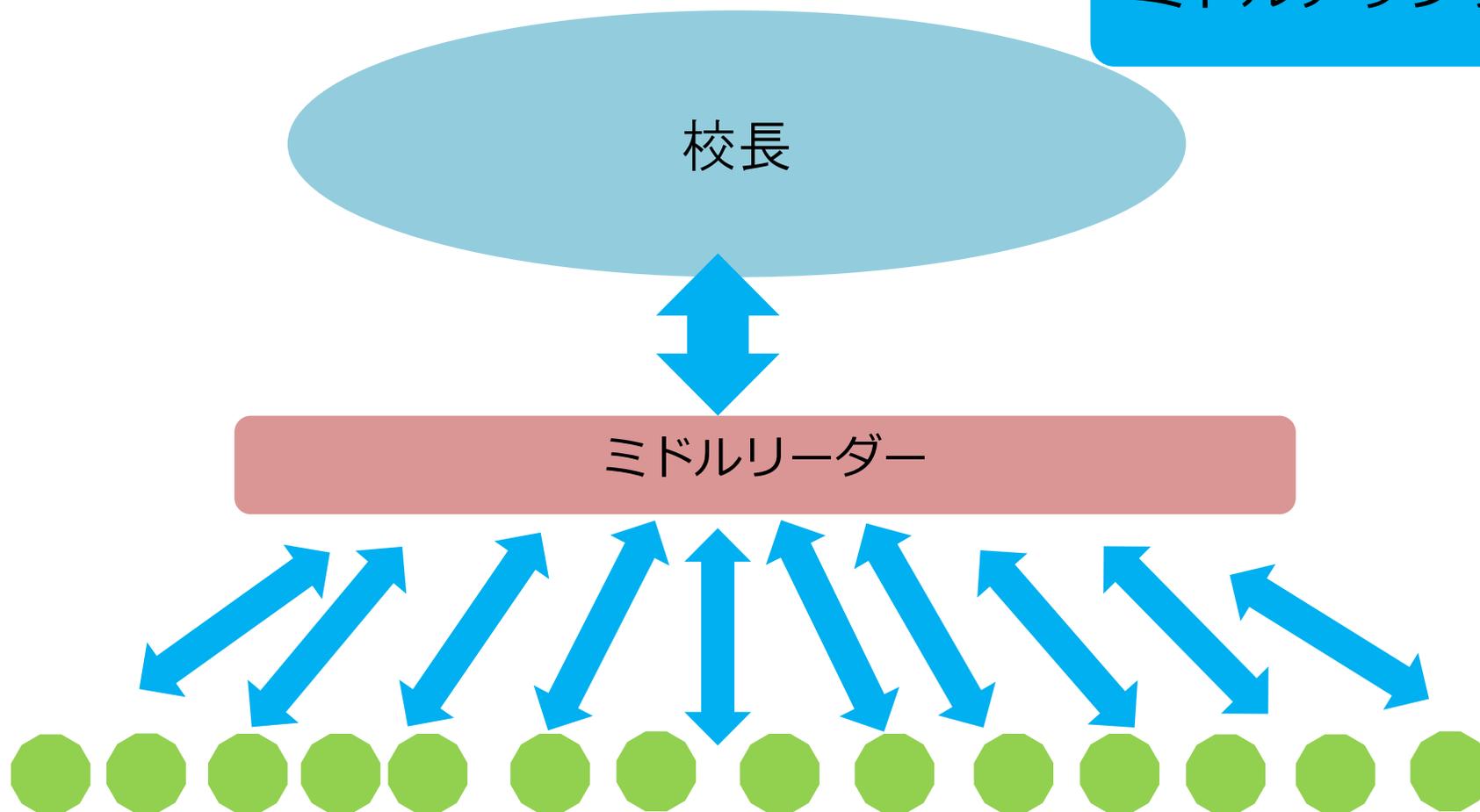
校長



IV-2 具体的な取り組み

学校運営組織の改善(ミドル・アップダウン・マネジメント)

ミドルアップダウン型



ミドル層に期待される役割

- 経営計画の戦略を第一線の実情に合わせて
かみ砕いて言い換え、全体に浸透しやすくする。
- 第一線の声を拾い上げ、経営判断の手助けとなる情報
として具申する。

IV-2 具体的な取り組み

学校運営組織の改善(ミドル・アップダウン・マネジメント)

特別支援教育部

- ・ 特別な支援を要する児童への対応
- ・ 校内委員会の柔軟な開催

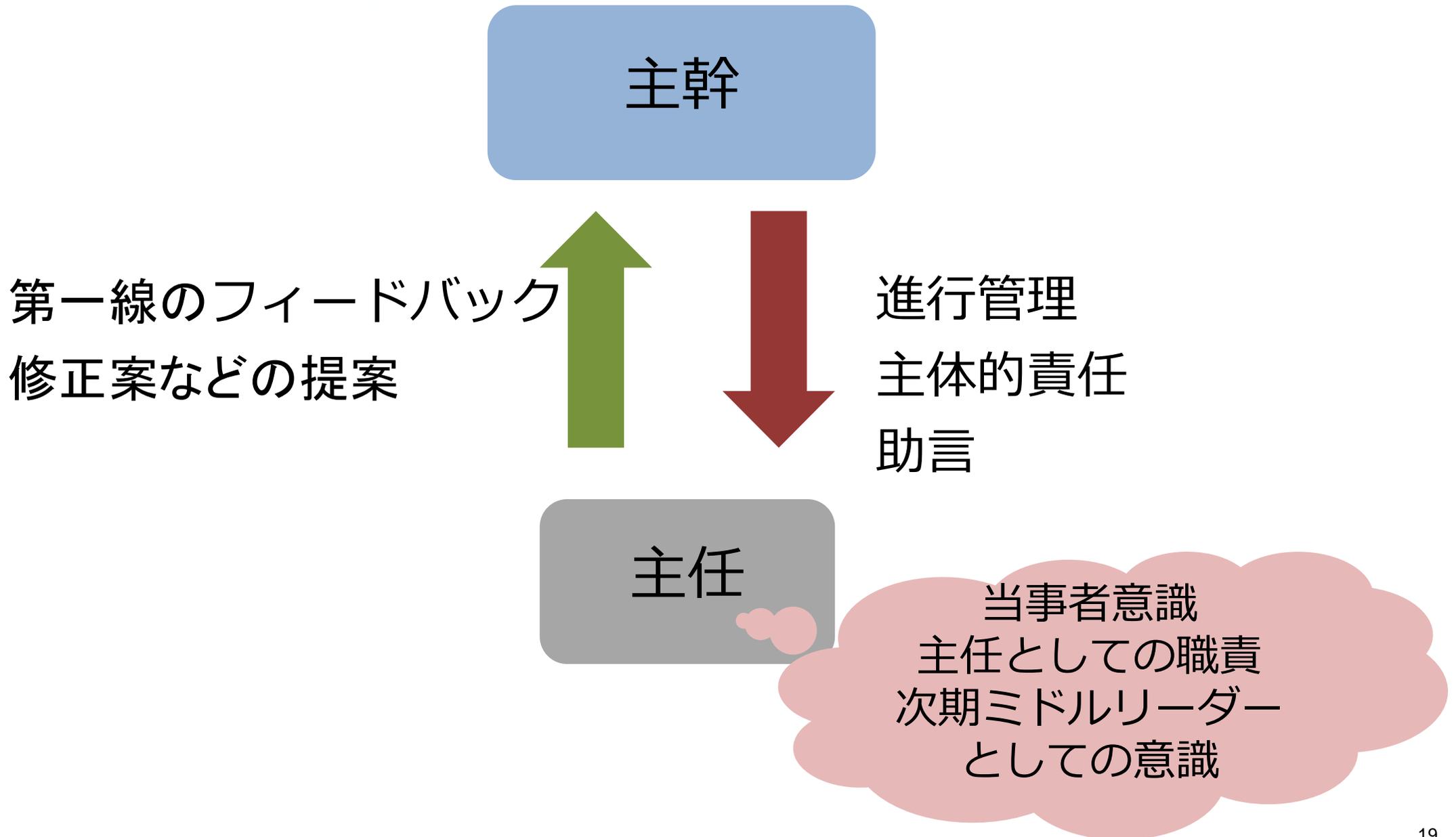
I C T 部

- ・ 校務支援システムや I C T 導入の進行管理
- ・ 即応的な研修計画や体制の構築

特別活動部

- ・ 児童を主役とするための知識や指導技術の伝達
- ・ 持続可能な行事や児童主体の活動への変革

IV-3 具体的な取り組み 日常の教育活動のOJT化



IV-3 具体的な取り組み 日常の教育活動のOJT化

主任教諭を育てる

教育活動を持続可能なものへ

- ・人材配置の際に主幹教諭と主任教諭、主任教諭と教諭を人材育成の視点で意図的に組み合わせることで・・・・・・・・
- 知識や技術の伝達が起こり、異動などで人材が入れ替わっても特色ある教育活動の継続が可能となる。

ミドルリーダー層の充実

- ・責任を与え、主体的に職務に就かせることで・・・・・・・・
- 具体的な実行責任者として行事などに関わらせることで、成功体験や達成感を得て自信を付けさせ、次のミドルリーダーとしての自分の有用性に気付かせる。

IV-4 具体的な取り組み 校務支援システムの導入

導入の目的

校務支援システムは、教職員の校務を軽減し、児童と触れ合う時間を確保するために導入する。

導入する機能

- 1 学籍情報管理
- 2 出席簿・出欠管理
- 3 成績管理(指導要録の作成を含む。)
- 4 帳票印刷
- 5 グループウェア(メール、掲示板、文書回覧、スケジュール管理)
- 6 文書ファイリングシステム

IV-4 具体的な取り組み 校務支援システムの導入

学籍情報管理

校務支援システムで児童情報を管理。各種帳票の基本情報。

基本情報

ID	2300010007
現在学年	8年
校同学籍番号	
パスワード	
氏名	佐藤 悠希
氏名かな	さとう ゆうき
通称名	
通称名かな	
性別	男
生年月日	2004/08/07 12歳
郵便番号	118-0855
住所	東京都文京区大塚五丁目18番
電話番号	03-5978-1333
国籍	日本
学区(地区別)	文京区立大塚 証(1) 証(2)
備考	
通学方法	徒歩
メモ	あいなえお
メモ	かきつけこ
メモ	さしすせと
申し送り欄	
学籍編制	

基本情報管理項目

- ① 児童情報
(氏名・生年月日・性別・入学年月日・学年・学級・出席番号・住所・電話番号・転入出情報)
- ② 保護者情報
(氏名・電話番号・緊急連絡先)
- ③ その他
(進学先、兄弟・姉妹)

IV-4 具体的な取り組み 校務支援システムの導入

成績管理

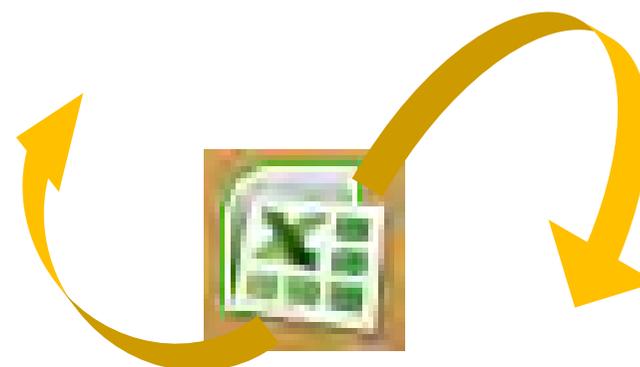
校務支援システムで児童情報を管理しています。各種帳票の基本情報になります。

到達基準		観基	人数	参考	決定
A/B		90	A	2	3
B/C		60	B	6	5
			C	12	12

区分		テスト	テスト	テスト	テスト
単元項目名		言葉は動く	海の命	六年の漢字	学年のまと
係数		1	1	1	1
NO	氏名/配点	参考	修正	決定評価	前学期の評価
6102	伊賀 潤	B	C	▼	C
6103	五十嵐 奏多	B	B		B
6104	生駒 悠生	B	B		B
6105	石櫃 大河	B	B		B
6106	泉 諒	B	B		B
6107	出雲 旭	B	B		B
6108	伊勢 涼	C	A	▲	A
6109	一堂 涼太	C	C		C

評価・評定については、前学期に比べて変動した場合、それぞれを矢印の表示等により視覚的に把握することができます。

2	3	▲	3	▲
2			2	▲
2	3	▲	3	▲
2			2	▲
2	1	▼	1	
2			2	▲

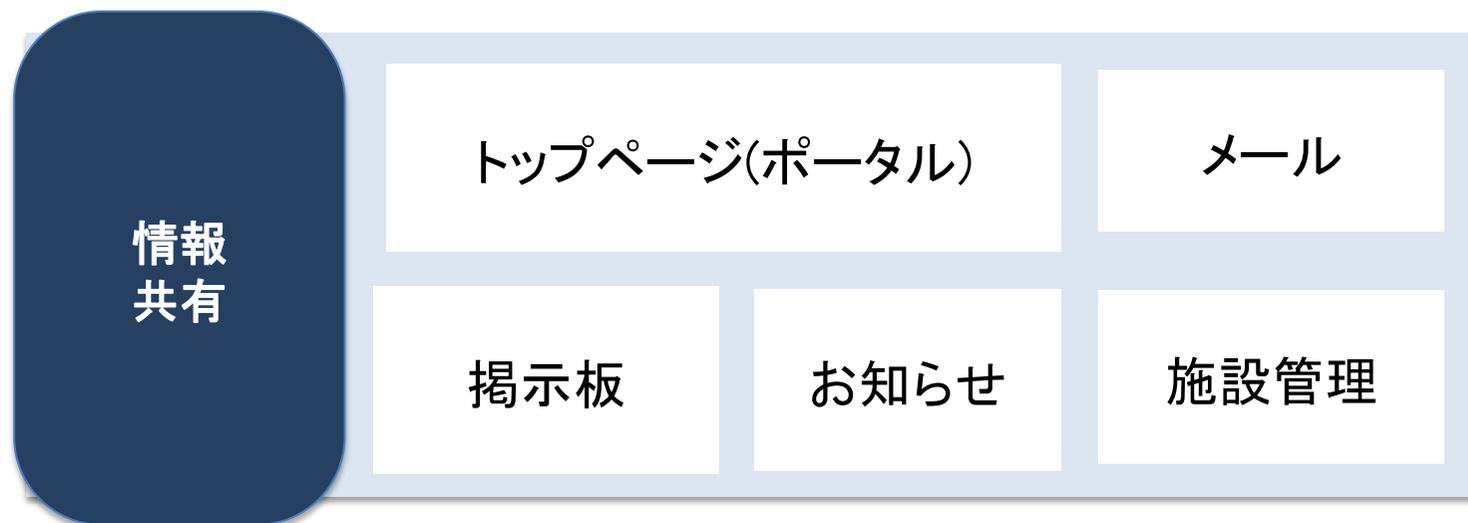


Excelファイル形式でダウンロード・インポート可能

IV-4 具体的な取り組み 校務支援システムの導入

グループウェア機能

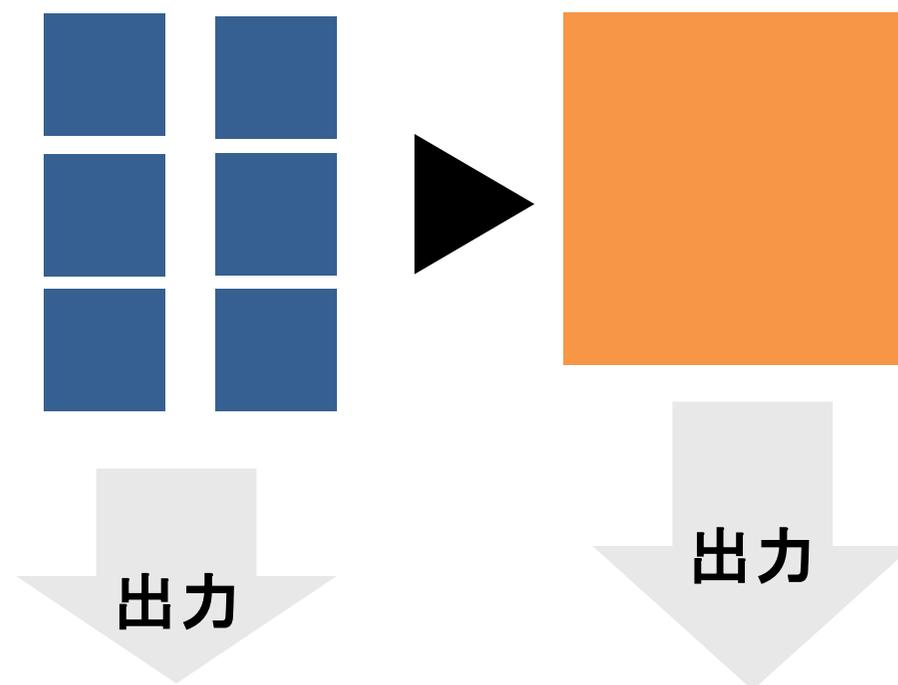
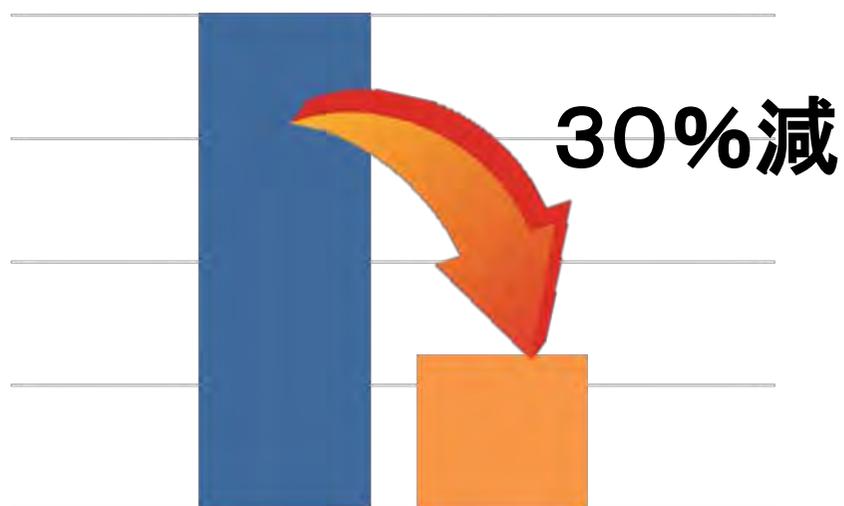
メール、掲示板などの機能は、全市で導入。



IV-4 具体的な取り組み 校務支援システムの導入

効果

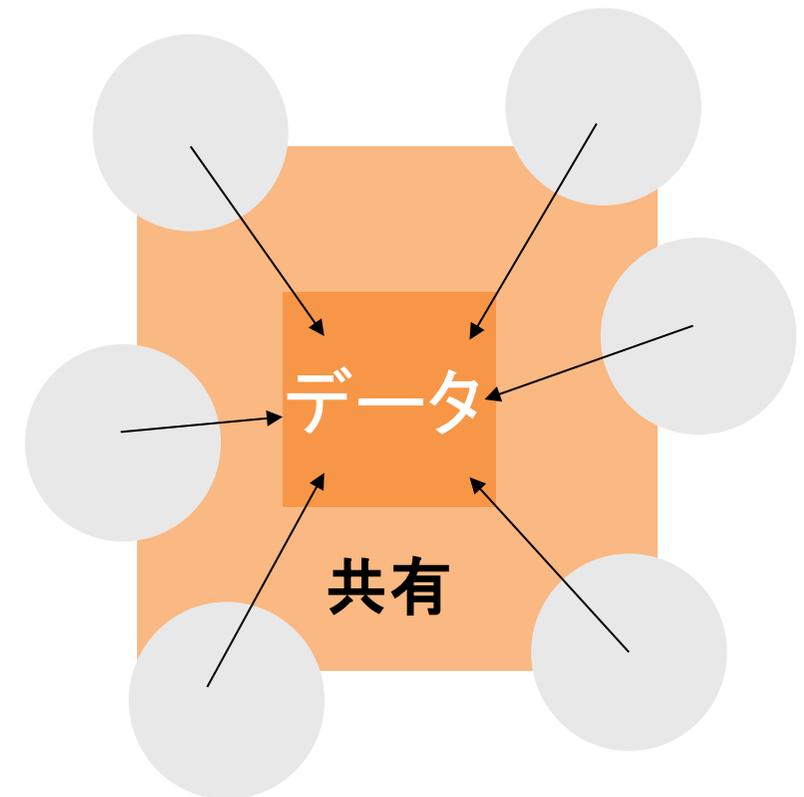
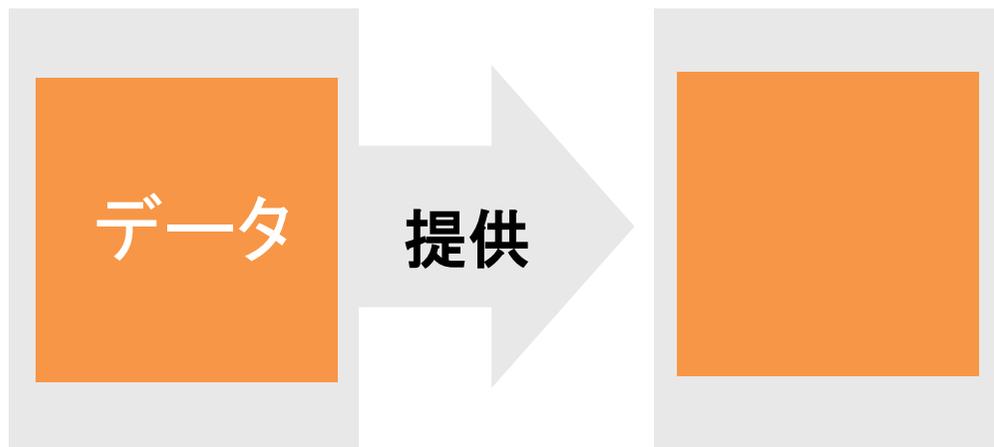
- ・ 通知表の作成が今までの30パーセントの時間で行える。
- ・ 通知表と児童情報のデータが連携しているため、通知表や指導要録の作成時間が短縮された。
- ・ 各種帳票の出力元が一本化され、校務の効率化が図られた。



IV-4 具体的な取り組み 校務支援システムの導入

効果

- ・ 新入学児童の児童情報が、学務保健課からのデータ提供により、瞬時にできる。
- ・ 児童情報が一元化され、家庭と連絡を取ったり児童情報を検索したりすることが容易になった。



IV-5 具体的な取り組み

ICTを活用することによる教育活動の効率化

一斉学習

教員のみ使用

協同学習

児童がグループで
1台使用

個別学習

児童が1人1台
使用

IV-5 具体的な取り組み

ICTを活用することによる教育活動の効率化

教員のICT活用能力の向上

一斉学習

個別学習
協同学習

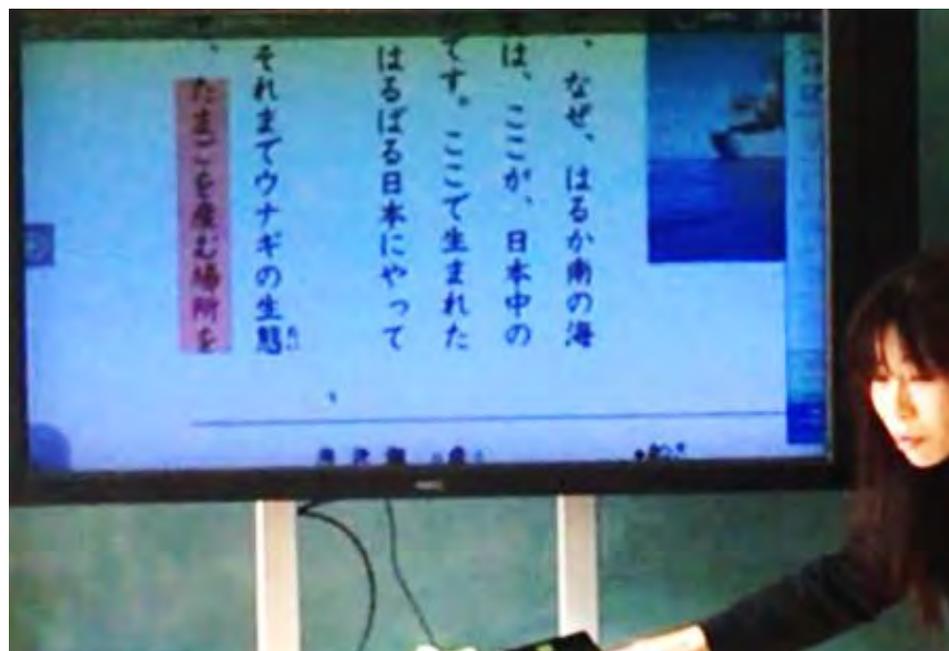
IV-5 具体的な取り組み ICTを活用することによる教育活動の効率化

活用能力の向上



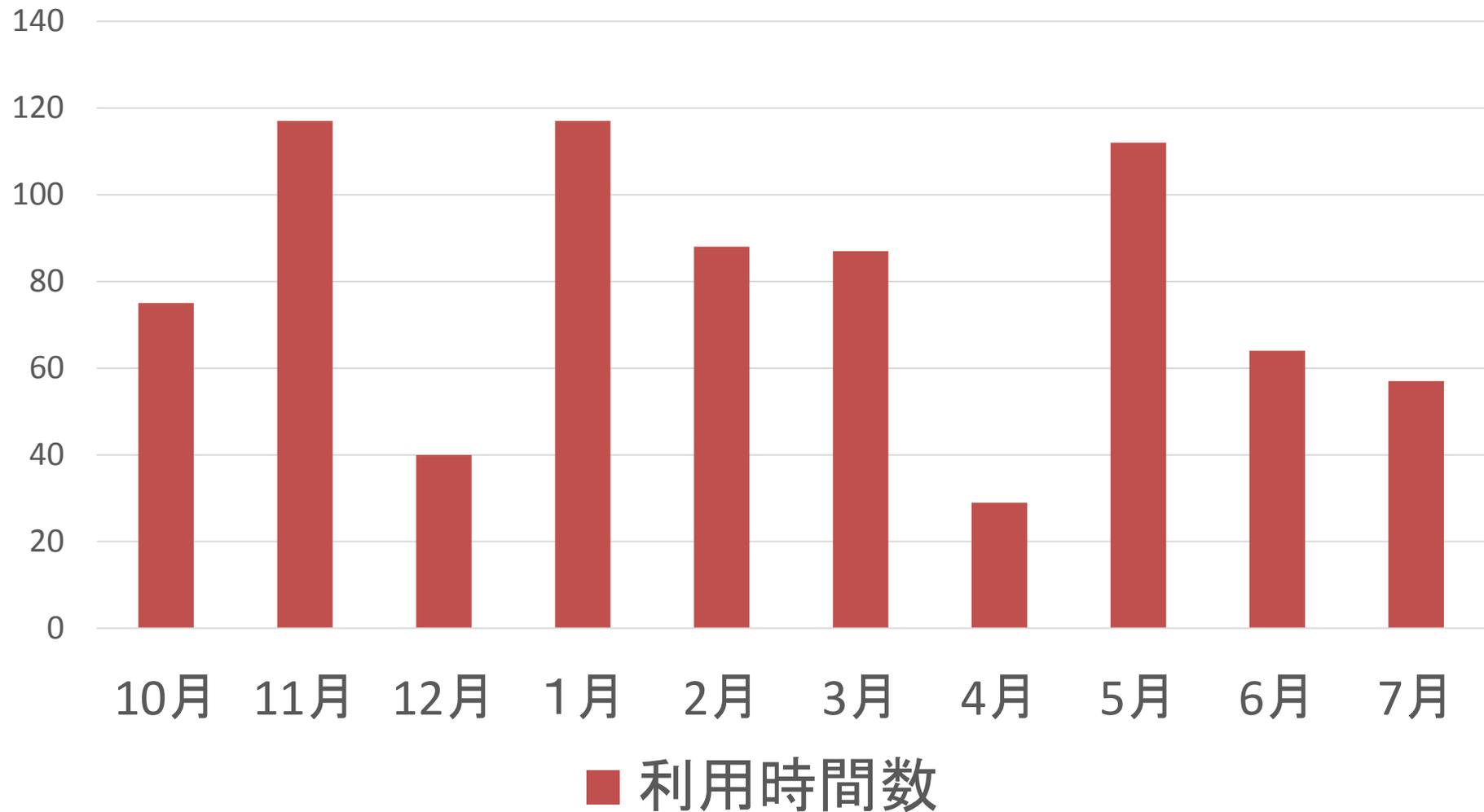
IV-5 具体的な取り組み ICTを活用することによる教育活動の効率化

一斉学習



IV-5 具体的な取り組み ICTを活用することによる教育活動の効率化

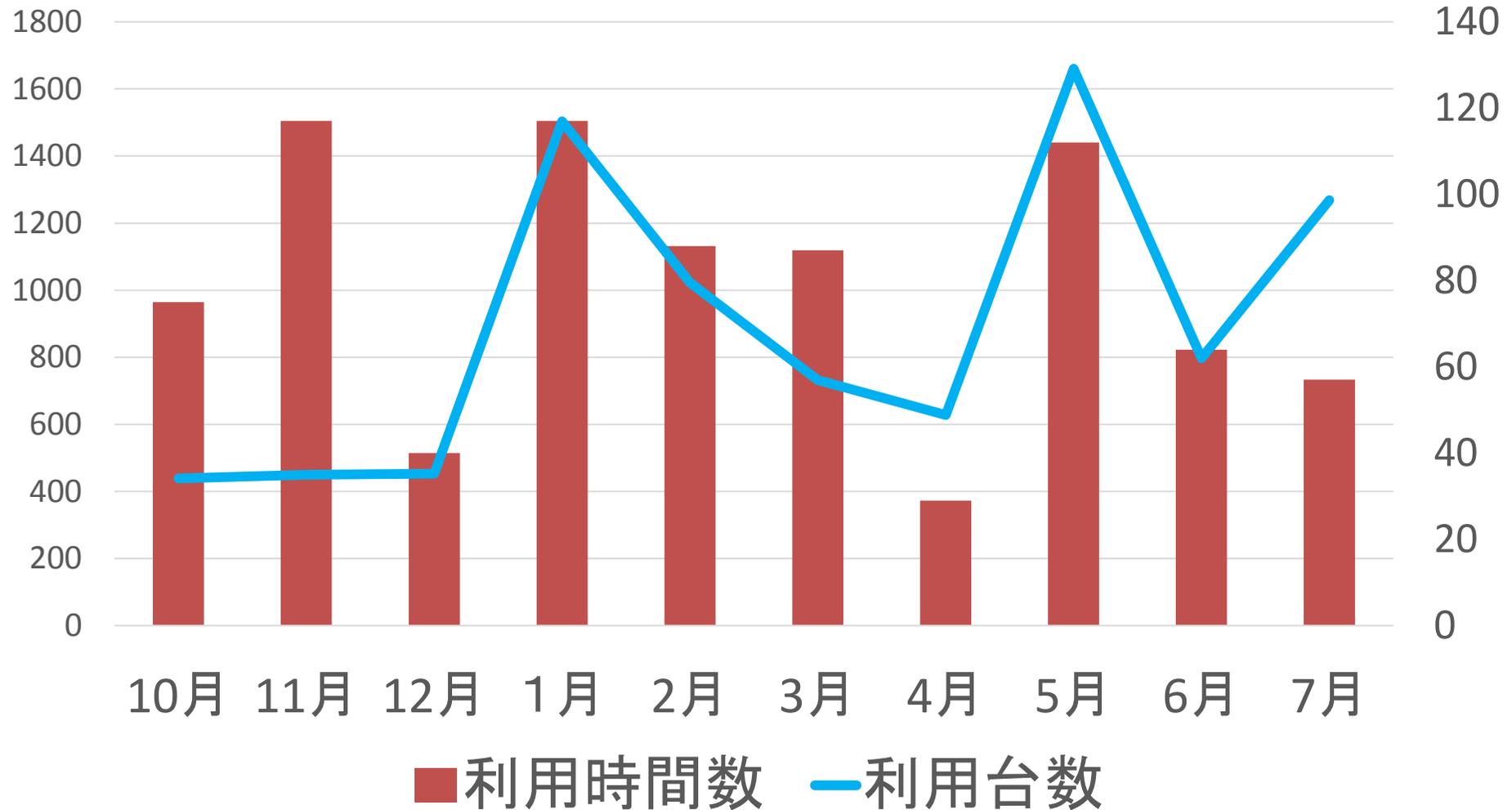
タブレット利用分析



IV-5 具体的な取り組み

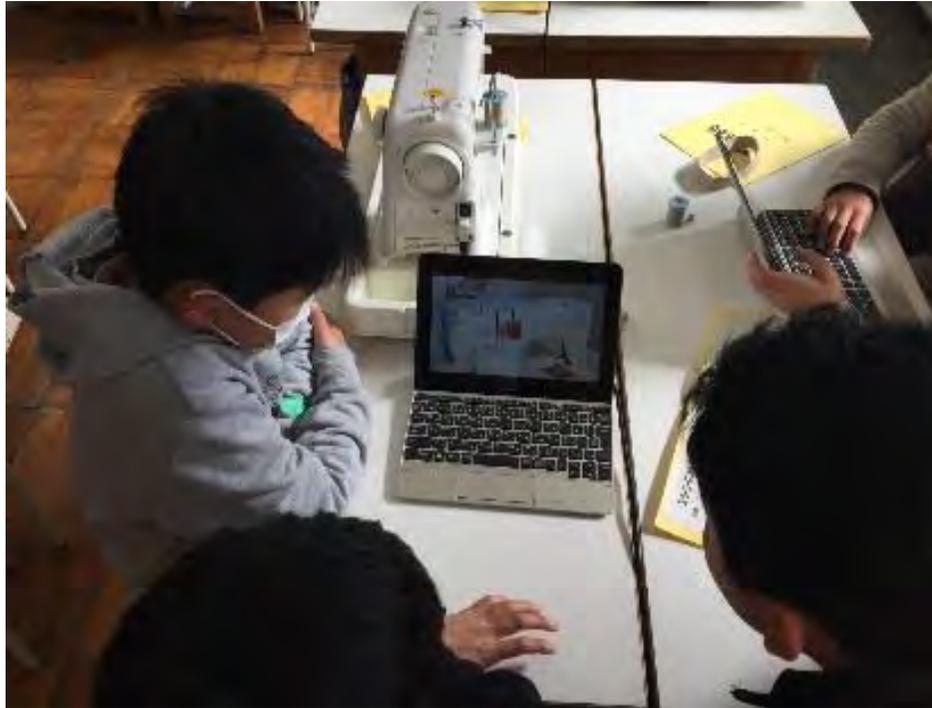
ICTを活用することによる教育活動の効率化

タブレット利用分析



IV-5 具体的な取り組み ICTを活用することによる教育活動の効率化

協同学習



IV-5 具体的な取り組み ICTを活用することによる教育活動の効率化

個別学習



IV-5 具体的な取り組み

ICTを活用することによる教育活動の効率化

学校における教育の情報化の実態に関する調査(平成27年度・28年度比較)

	チェック 項目番号	わりに できる	やや できる	あまり できない
A-1	教育効果をあげるには、どの場面にもどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画をする。	+6	+5	-9
A-2	授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	+6	+1	-5

IV-5 具体的な取り組み

ICTを活用することによる教育活動の効率化

学校における教育の情報化の実態に関する調査(平成27年度・28年度比較)

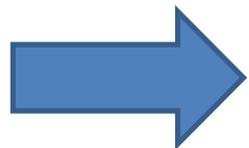
	チェック 項目番号	わりに できる	やや できる	あまり できない
A-4	評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。	+2	+6	-6
B-1	学習に対する児童の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	+2	+3	-3
B-2	児童一人一人に課題を明確につかませるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	+1	+5	-4

IV-5 具体的な取り組み

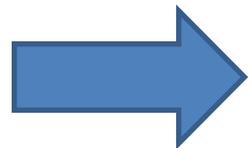
ICTを活用することによる教育活動の効率化

効果

ユニバーサルデザインにおける「視覚化」の効果
学ぶ楽しさの実感、学習意欲の向上
協同的な学習
問題解決能力の育成



教員のICT活用能力の向上



児童が主体的に取り組む「分かる授業」へ

V 今後の展望

○特色ある教育活動が持続可能となる組織づくりが今後も必要である。

- ・校長が3年先を見通した人事異動と学校運営組織における人材配置を行う。
- ・日常の教育活動や学校運営組織をOJTとして位置付け、さらなる人材育成へとつなげる。

○サーバーと文書保存ファイルによる、ファイリングシステム実施手順に基づく、文書作成と整理のルールを徹底し、定着を図る。

○学校組織マネジメントの考え方に基づく人材育成を継続する。

学校組織マネジメントの考え方を学級経営の基本とする。

若手人材から、その考え方の研修を積ませていく。

平成29年度 校務改善推進事業発表会

教師も子供も生き生きと輝く学校

府中市立府中第三小学校

ご清聴ありがとうございました。